

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(C)（特設分野研究）

研究期間：2015～2019

課題番号：15KT0125

研究課題名（和文）旧ソ連諸国の戦争記念碑比較研究：権威言説の視覚化と地域性

研究課題名（英文）War Monuments in Former Soviet Countries

研究代表者

前田 しほ（MAEDA, Shiho）

島根大学・学術研究院人文社会科学系・准教授

研究者番号：70455616

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：旧ソ連の独ソ戦の記念碑を中心に戦争記憶を調査し、文化史的視座から旧ソ連諸国の愛国主義のメカニズムを分析・考察することを目的とする。敗戦国である日本にとって、戦勝国の戦後イデオロギーは理解しがたい。総力戦の栄光の勝利の記憶は、ナショナル・アイデンティティの基盤である。そして、ソ連の愛国主義プロパガンダの戦略は、後継国家であるロシアをはじめ、中国・北朝鮮・モンゴルなど、北東アジア地域一帯に影響を及ぼしており、ソ連の戦争についての記憶研究を充実させることが肝要だ。このような観点に基づき、旧ソ連全体を調査対象として、今日残っているソ連の戦争記念碑と、ソ連崩壊後に造られた戦争記憶を広く収集した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

以前からの調査も合わせ、旧ソ連15か国全てに対して、現地調査・資料収集に入ることができた。特に戦争記念碑の実態を確認し、写真撮影をして、記録した。こうした包括的な調査は世界に例がなく、ソ連崩壊以降の撤去・再建のため、姿を消しつつある戦争記憶を記録した点で、史料としての価値が高い。ソ連の記念碑のコンセプト・技術は旧・現社会主義圏にも広がっており、それらの地域への調査を行うことで、広域な地域を比較検討する材料を揃えた。さらに、戦争記念碑の「想像の共同体」形成への寄与の在り方、地域性や様式の現地化を検討することで、新たな理論的枠組みを構築し、日本社会に異文化理解の足掛かりを提供しうるものである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this project is to research and analyse condition of war memorial, especially war monument on German-Soviet War in former republics of the Soviet Union and consider mechanism of patriotism from the viewpoint of Cultural History. It is hard for defeated country Japan to understand hegemonic postwar ideology. Victorious total war memorial became base of national identity. North-east Asian countries - Russia, Mongolia, China, North Korea inherited Soviet propaganda strategy which evoked patriotism among people, therefore, it is important to make memorial studies on Soviet war propaganda. This is comparative study of Soviet war memorial and present condition in former Soviet Union.

研究分野：ロシア文学文化

キーワード：記念碑 ソ連 戦争記憶 プロパガンダ 愛国主義 ロシア イメージ ナショナル・アイデンティティ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

旧ソ連でもっとも重要な戦争記憶は第二次大戦の独ソ戦であるが、日本では、十分な調査や議論が行われていない状態にあった。歴史学の分野では、独ソ戦は、ドイツ側からの研究と比較すると、ソ連側は手薄な状況にあった。文化論は抽象的な議論や特定の記念碑にとどまり、例えば、戦争記念碑は権威言説のシンボルとして自明視され、なぜ国民にそれを愛されているのかという点が見落とされてきた。

英語圏の研究は、連合国として戦勝国の戦後イデオロギーを共有しているために、愛国主義の動機付けを共有し、これを客観的に論じることができない。また敵国研究の観点に囚われ、社会主義の価値観や現地の社会や文化、国民感情の客観的分析が困難であると考えられる。

他方で、ロシア国内では戦争記憶は政治的にセンシティブな話題であり、客観的な議論は難しい。このような理由から、旧ソ連の戦争記念碑は、包括的な調査は行われておらず、また実態を精査した実証的な研究は十分に行われていない状況にあった。

しかもブレジネフ期に建てられた記念碑は、耐久性が限界を迎え、撤去が進んでいる。ロシアではプーチン政権下で愛国主義が高まり、新たな建立や建て替えが進む。旧ソ連全体に目を向けると、ロシアとの関係の変化や、ガラパゴス化に伴い、廃墟化、撤去、立て替えなど、様々な状況にある。全体として、ソ連の戦争記憶の光景は失われつつあり、これを記録に残すことは、歴史的な意義があると考えられた。

### 2. 研究の目的

記念碑は近代国家のナショナル・アイデンティティを象徴するものである。ブレジネフ期以降の旧ソ連から今日のロシアでは、独ソ戦の戦勝記念碑がその役割を担ってきた。他方で、独立した国家では、ロシア政府との関係や戦争体験の如何によって、戦争記念碑撤去・保存、あるいは放置して廃墟化、イメージ戦略継承・拒絶で対応が分かれている。本研究課題は、旧ソ連の全域を調査対象として、戦後の独ソ戦記念碑のイメージを観察・分析することで、文化史的視座から旧ソ連諸国の愛国主義のメカニズムを考察するものである。

(1) 戦争記念碑のイメージが「想像の共同体」形成にいかなる役割を果たしたのか明らかにする。

(2) イメージ戦略や民衆の抵抗は旧ソ連崩壊後の独立国家・地域によってどのような差があるか明らかにする。

(3) 記念碑イメージがいかに現地の伝統的な様式と融合しているか、また、いかにイメージ戦略を継承/拒絶しているか明らかにする。

以上三つの観点について、旧ソ連の各地で現地調査を行い、分析・考察して、一定の理論的枠組みの形成を目指し、ソヴィエト文化史・社会史の再考を試みる。

また旧ソ連の特徴を抽出するために、「西側」の記念碑の在り方や、社会主義文化を受け入れて近代化したアジア、戦後ソ連の影響下にあり、民主化後急速に社会主義色を排除した中東欧における記念碑や記憶の在り方と比較する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 戦争記憶の実態調査と資料収集

旧ソ連から独立した民族共和国を訪問し、戦争の公的記憶の実態を調査し、データベースを作る。記念碑、博物館調査と並行して、プロパガンダ・ポスター集、記念碑写真集、指導者の記念本等を収集する。

#### (2) 地域間の比較

当初はいくつかの国家・都市に絞る予定だったが、戦争記憶の在り方が国家単位で全く異なることが判明したため、国際的に承認されている15国家すべてを調査対象とした。

15か国の首都や主だった都市を調査し、地域・国家間での比較を行う。記念碑に用いられるモチーフ、現地の伝統様式、規模、ロケーション、素材、建立年を調べる。政変時の民衆の反応、時代による記念碑の変化を確認し、できる範囲でロケーションの変化を追跡する。

旧/現社会主義圏で調査を行うことで、これらの国・地域に対するソ連の記念碑コンセプト、技術の導入がどの程度か確認する。また、現地の伝統様式との融合の状況を調査し、広く比較する。

資本主義圏の「西側」都市の調査を実施することで、近代の都市構造における記念碑の役割を広く比較する。

### 4. 研究成果

#### (1) 戦争記憶の実態調査

ソ連時代の地図や写真の入手ができた場合には、できる範囲で社会主義時代の都市構造を踏まえたうえで、記念碑調査を行った。社会主義時代と今日の都市構造のずれや共通性を検討することで、記念碑の象徴性や、記念碑を新たに建立したり、あるいは維持することの文化的社会的な意味を明らかにする糸口をみつけることができた。

写真撮影してきた資料は数万枚におよぶが、研究代表者個人が使用する限りで、データベース化し、整理した。

## ( 2 ) 地域間の比較

本研究課題実施中は、多くの地域で内戦や治安が落ち着き、ウクライナ東部を除いて、広域調査を実施できた。研究課題開始前に実施済みだった地域と合わせて、15 か国全ての調査を実施できた。かつてのレーニン像の所在地の再利用方法や、戦争記念碑の現状や撤去後の状況、追跡調査、戦死者追悼、指導者崇拝の在り方などを合わせて調査し、その対応は国によって大きく分かれていることが確認された。

また私費・他費を合わせて、ベトナム・中華人民共和国、朝鮮民主主義人民共和国、ルーマニア、ポーランドなどの旧 / 現社会主義国を調査し、社会主義の記念碑や戦争記憶の状況を確認した。

西側の都市として、ワシントン、パリ、ベルリン調査を実施し、社会主義的近代化の都市構造との差異や共通性を比較検討した。

以上から、地域性と現地化、普遍性を考察するうえでの一定の素材を収集することができた。

## ( 3 ) 国際発信

国際的な成果発信を積極的に行うという当初の目的は達成することができた。国際会議での発表4本、国際学術誌での論文発表2本行った。アメリカ、ロシア、ヨーロッパ、韓国等の研究者と交流し、テーマの新規性、斬新さ、考察の論理性が評価され、本研究課題の成果が国際的評価に耐えうる質をもっていることが確認された。国際会議でのパネル組織も行い、学術組織活動にも取り組んだ。

## ( 4 ) 研究成果の発表

本研究課題は、現地調査、資料収集を重点的に行い、データベース・資料の整理まで作業を進めた。ただし、成果の発信については、十分とはいえない。単に事例を並べて報告するのではなく、テーマ性を発見し、地域の記憶形成を分析したうえで、理論的枠組みを作り上げることを重視しているため、研究機関内に論文として成果発表するに至っていない。しかし、いくつかの論点から口頭発表を行い、理論化のめどは立っているので、今後、とりまとめて、単著刊行や権威の高い査読誌、英語での発表をめざす。

## ( 5 ) 研究活動の展開

本研究課題を執行中に、東アジアにおける社会主義的近代化への関心を深め、朝鮮半島を中心とした社会主義文化についての研究コミュニティの構築に着手した。2017年度に科研費基盤(B)「文化としての社会主義：北東アジアと DPRK 研究課題」として採択され、研究代表者として、研究会の組織・運営、国内外での調査、国内外の研究者・研究コミュニティとの交流、若手研究者支援など、研究組織活動にも力を入れている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 前田しほ	4. 巻 16
2. 論文標題 グリゴリー・チュフライ『泥沼』における母の愛のイメージ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ヴロツワフ・スラヴ学	6. 最初と最後の頁 99-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田しほ	4. 巻 2
2. 論文標題 第二次大戦独ソ戦についてのソヴィエト文芸作品における過剰な男性性と父性不在	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 時間と空間のプリズマを通した母性と父性：国際会議プロシーディング	6. 最初と最後の頁 332-334
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 前田しほ	4. 巻 1096
2. 論文標題 スターリングラード攻防戦の記憶をめぐる闘争：象徴空間としての戦争記念碑	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 153-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 旧ソ連の記念碑における寓意的女性像：ロシア・南コーカサス・ウクライナの現状と比較考察
3. 学会等名 2017年度日本ロシア文学会研究発表会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 ソヴィエトの都市空間とモニュメント
3. 学会等名 第2回「文化としての社会主義」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 ロシアの戦争記念碑について：ナショナリティとジェンダー
3. 学会等名 2016年度第2回北東アジア研究会/NIHU「近代的空間の形成とその影響」研究会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Maeda Shiho
2. 発表標題 (Post-)Soviet Monuments as a Political Space: National History, Removal, and Affection
3. 学会等名 IIAS Seminar “Around the Changbai mountains: A seminar on the narratives of the ethnic groups in Northeast Asia”（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 第二次大戦独ソ戦についてのソヴィエト文芸作品における過剰な男性性と父性不在
3. 学会等名 第9回ロシア女性史学会国際会議：時間と空間のプリズマを通じた母性と父性（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Maeda Shiho
2. 発表標題 The Representation of Soviet Homefront Women of the Great Patriotic War and Patriotism: Propaganda Art and V. Rasputin's Live and Remember
3. 学会等名 The 48th Annual ASEES Convention (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 Gender Hierarchy in Soviet Russian Memorial of the Great Patriotic War
3. 学会等名 ICCEES the IX World Congress (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 旧ソ連における 戦死者記念碑について： モスクワ攻防戦を中心に
3. 学会等名 ソビエト史研究会2019年度年次大会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田しほ
2. 発表標題 スターリン期プロパガンダの女性イメージ
3. 学会等名 「文化としての社会主義」第5回研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 Dmitrii BADALIAN, Kyoo Yun CHO, Jin Seok CHOI, Bora CHUNG, Boris EGOROV, Valerij GRETVHKO, Junna HIRAMATSU, Akiko HONDA, Soo Hwan KIM, Boris LANIN, Shiho MAEDA, Takashi MATSUMOTO, Tadashi NAKAMURA, Hye Hyun NAM, Susumu NONAKA, Young Eun PARK, Isina SHATOVA, Satoko TAKAYANAGI, Naoto YAGI	4. 発行年 2015年
2. 出版社 Logos	5. 総ページ数 270 (担当: 184 - 198)
3. 書名 Far East, Close Russia: The Evolution of Russian Culture - A view from East Asia (前田しほ担当: 女性兵士の語りと表象: 戦争神話とアレクシエーヴィチ『戦争は女の顔をしていない』)	

1. 著者名 沼野 充義、望月 哲男、池田 嘉郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 886(担当: 104-105, 258-261頁)
3. 書名 ロシア文化事典(前田しほ担当: 記念碑、キャピアと前菜(ザクースカ)、スイーツいろいろ)	

1. 著者名 越野 剛、高山 陽子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北海道大学出版会	5. 総ページ数 250(担当: 67-93頁)
3. 書名 紅い戦争のメモリースケープ(前田しほ担当: 第三章ソヴィエト・ロシアのプロパガンダにおける女性図像と象徴性: 社会主義国家の建設から総力戦体制へ)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----